
休日夜間急病診療所が移転 ～安全・安心な診療所へリニューアルオープン～

休日夜間急病診療所については、築 50 年が経過し、老朽化が著しく、待合室が手狭であるほか、十分な感染防止対策の実施が困難であるなどの課題を抱えていたことから、休日夜間における一次救急医療体制の更なる充実を図るため、市の中心地である市役所南側に新たな診療所を建替えるとともに、有事の際の活用も想定し、運営主体を（公財）尼崎健康医療財団から市に改め、令和 7 年 11 月 1 日から診療業務を開始します。

1 新たな施設の名称、所在地及び電話番号

尼崎市立休日夜間急病診療所

（所在地：尼崎市西難波町 6 丁目 1 番 9 号 電話番号：06-6480-9500）

2 診療科目

内科、小児科、眼科及び耳鼻咽喉科

3 主要諸室

▼一般外来部分

診察室（内科・小児科 3 室、眼科 2 室、耳鼻咽喉科 2 室）、救急処置室、点滴室、調剤室、待合スペース、トイレ（男性・女性・多目的）、授乳室、事務室、医師控室、更衣室他

▼感染症外来部分【新設】

診察室（感染症 2 室）、点滴室、待合スペース、トイレ

4 新たな診療所の特色

▼待合い環境の改善

- ・待合スペースの広さが約 2 倍となり、座席も 78 人分から 120 人分に拡充
- ・電子カルテの導入により、医師の診療内容を瞬時に共有することができるようになり、会計及び薬の処方までの待ち時間が大幅に短縮

▼感染症対策の強化

- ・新たに感染症診療スペースを設置し、感染症患者と一般患者の動線を分離
- ・全ての診察室に通じるスタッフ専用通路を設け、患者と医療従事者の動線を分離

▼災害に強い診療所

- ・発災後 72 時間施設機能が維持できるよう、非常用発電機、オイルタンク、受水槽、汚水貯留槽を設置

▼環境にやさしい診療所

- ・市の公共施設として初めて ZEB Ready[※]の認証を取得
- ※自然光の取り入れ、建物の高断熱化や LED 照明などの省エネ技術を活用して、エネルギー消費量を国の基準より 50%以上削減した施設

5 診療開始日

令和7年11月1日（土）午後4時から診療を開始します。

以 上

参考（診療日及び診療時間）

診療科目	平日（月～金）	土曜日	日曜日・祝日	年末年始 (12/29～1/3)
内 科	21：00 ～ 6：00	16：00 ～ 6：00	9：00 ～ 6：00	
小児科	21：00 ～ 24：00	16：00 ～ 24：00	9：00 ～ 24：00	
眼 科	—	—	9：00 ～ 17：00	9：00 ～ 6：00
耳鼻咽喉科	—	18：00 ～ 21：00	9：00 ～ 17：00	9：00 ～ 6：00

休日夜間急病診療所が移転 ～安全・安心な診療所にリニューアルオープン～

令和7年11月1日（土曜日）、休日夜間急病診療所が市役所本庁舎南側へ移転します。
休日・夜間の急病時に、市民の皆様が安心して受診できる診療所を新たに開設します。

休日夜間急病診療所とは

- 休日・夜間の急な発熱や腹痛などに対して、
応急的な診療を行う医療機関
- 4科目の診療を実施
 - ・内科（365日）・小児科（365日）
 - ・耳鼻咽喉科（土、日祝）・眼科（日祝）
 - ※ 年末年始は全ての診療科目を実施
- 受診者数は、年間約20,000人
1日あたりでは概ね、平日：10人、土曜日：60人
日曜日：170人、年末年始：470人が受診
- 現在の診療所は**築50年が経過し、待合スペースも狭く、
十分な感染防止対策が困難**

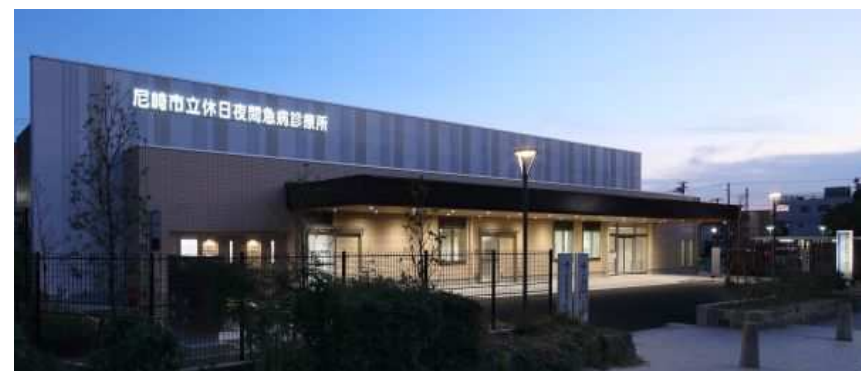


新しい急病診療所の概要

名 称	尼崎市立休日夜間急病診療所
所 在 地	尼崎市西難波町6丁目1番9号
構 造 等	鉄骨造 平屋建て（延床面積1032.01㎡）
駐 車 場	市役所第1・第2駐車場を利用（128台） ※受診者は駐車料金無料
設計監理	株式会社山田総合設計 （公募型プロポーザルによる）
施工者	建築：宮崎建設株式会社 電気：山口電気工事株式会社 機械：株式会社成友
管理運営	一般社団法人尼崎市医師会が 指定管理者として実施



急病診療所 ～昼間の様子～

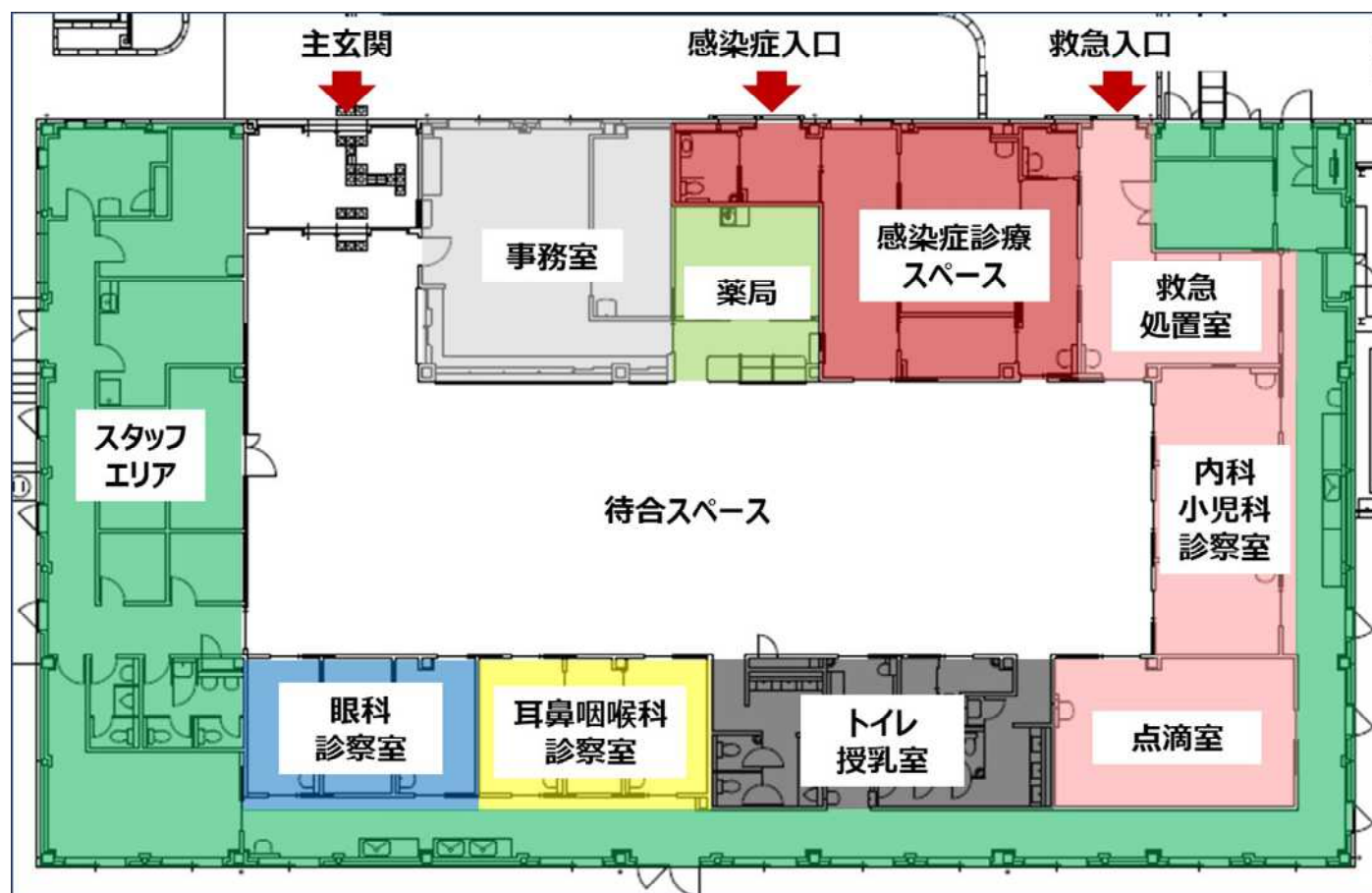


急病診療所 ～夜間の様子～

新しい急病診療所のレイアウト

ポイント

- 待合スペースを囲むように事務室、薬局、診察室等を配置
➡ **スペースの有効活用と動線の効率化**
- スタッフエリアを繋ぐことにより、患者と医療従事者の動線を分離
➡ **院内感染の防止**
- 感染症診療スペースへの専用出入口を設けることで、感染症疑い患者と一般患者の動線を分離
➡ **感染拡大の防止**



新しい急病診療所のコンセプト① – 待合い環境の改善 –

旧施設の課題

- 待合スペースが狭く、最も込み合う年末年始には、椅子に座れずに立って待つ患者や、診療所に入れず車内で待つ患者がいた。
- 紙カルテを用いているため、事務処理がすべて手作業となり、会計や薬の処方までに時間がかかっていた。



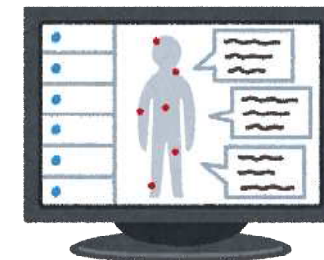
年末年始の診療風景

十分な待合の確保・電子カルテの導入

- **現行の約2倍**の待合スペースを確保
(座席数は現行78人分→120人分に拡充)
- **電子カルテシステムを導入**し、
医師の診療内容を会計及び薬局部門が瞬時に共有



待合スペース



快適な待合い環境と待ち時間の短縮を実現

新しい急病診療所のコンセプト② – 感染症対策の強化 –

旧施設の課題

- 出入口が一つしかなく、一般患者と感染症患者のゾーニングが難しい。
- コロナ禍では臨時の診察室を屋外に設置して、その中で診療を実施
感染が疑われる患者は、屋外のパイプ椅子で診察を待っていた。



コロナ禍の診療風景

感染症診療スペースの確保

- 感染症が疑われる患者に対する**専用出入口を設ける**ことで、一般患者との動線を分離
- スペース内には**陰圧換気システムを導入**し、一般待合スペースへのウイルスの流出を制御
- 換気用排出ダクトにHEPAフィルターを設置し、屋外へのウイルスの流出を制御



感染症診療スペース

安全な診療環境を整備し、周囲への感染不安にも配慮

新しい急病診療所のコンセプト③ – 災害に強い診療所 –

- 耐震性の確保
 - ➡ 防災センター等の**防災拠点と同程度の耐震性**
- 発災後**72時間**の施設機能を維持
 - ・非常用発電機（屋上）及びオイルタンク（地中）
 - ・受水槽
 - ・汚水貯留槽（地中）
 - ➡ **災害時も医療の継続が可能**



非常用発電機



地下オイルタンク

新しい急病診療所のコンセプト④ – 環境にやさしい診療所 –

- 省エネルギー建築として**ZEB Ready**認証を取得
 - ➡ **尼崎市の公共施設では初！**
- エネルギー消費量を国の基準より50%以上削減
 - ・自然光の取り入れ
 - ・高断熱化（屋上、外壁、天井、窓ガラス）
 - ・LED照明、人感センサーの導入による不要時の消灯、等
 - ➡ **脱炭素社会の実現に寄与！**



建築物省エネルギー性能表示制度（BELS）において、
ZEB Ready認証を取得

参考（診療日及び診療時間）

診療科目	平日（月～金）	土曜日	日曜日・祝日	年末年始 （12/29～1/3）
内 科	21：00～ 6：00	16：00～ 6：00	9：00～ 6：00	
小児科	21：00～ 24：00	16：00～ 24：00	9：00～ 24：00	
眼 科	－	－	9：00～ 17：00	9：00～ 6：00
耳鼻咽喉科	－	18：00～ 21：00	9：00～ 17：00	9：00～ 6：00